

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常的に本人が選択や決定できるよう、選択肢を設けるようにはしているが、本人が選んだり、考えたり迷ったりする場面で、職員が先に声をかけたり決めてしまったりしてしまうことが多い	①日常の中で、本人が選んだり決めたりする場面があることで楽しみが増える ②選択や決定に時間がかかっても待ってもらえる(職員が先に声をかけたり決めてしまったりしないようになる) ③自分で決められない、言えない利用者に対して「本人だったら」という視点で選択の支援ができる	①朝起きて着る服を選ぶ、食べ物や飲み物を選ぶ、好きな場所や人と過ごすなど、言葉だけでなく見ることなど工夫しながら促していく。 ②選択肢が多いとかえって混乱する場合もあるので個々に応じて(二択にするなど)対応する。 ②日常の色々な場面で、本人の様子(行動も含む)から、返事を待つようにし先に声をかけないようにする。 ③言葉では表現が難しい方に対しては、声を掛けて表情から読み取ったり本人だったらどうだろうかを考えながら行う。	12ヶ月
2	19	○本人を共に支え合う家族との関係作り お互いに直接会えない時期が長くなり、本人は家族のことを思い出せなかったり、家族は心配しながらも何もできないと 思っている中で、家族と本人との繋がりを断ち切らない支援を継続していきたくができていない	①家族に本人の様子が正しく伝わる(安心できる)方法を考えていく ②家族の思いや願い、希望、不安や疑問などを繋げてもらえていて思っていただけ ③利用者一人一人が自分が元気であることを家族に伝えられる	①毎月の便りで家族が気になっていることを正しく伝えるようにし、色々な場面での写真を送る。 ②来訪時には、写真や動画を準備の中に入れておき見ていただく。 ※日頃から生活の様子など家族の視点で写真や動画を撮るようにする(居室担当者) ③電話、手紙、ビデオ通話などで家族とのコミュニケーションを定期的に行えるようにする。 ④家族から聞き取ったことは、本人や職員間で共有できるように記録に残していく(アンケートなど) ⑤家族の写真を飾ったり、会話に出すなどして毎日思い出せるようにする。	12ヶ月
3	47	○服薬支援 誤薬防止に努めていたが事故が減っていない。内服支援はマニュアルに沿って行っていたが、確認不足もあった。一人一人の服用している薬の内容を把握していないことで起きた事故が多かったため、薬の内容を知ることが丁寧にしていき利用者の健康に繋げていきたい	①利用者一人一人が内服している薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を知ることができる。 ②服薬による本人の状態の経過や変化等を記録に残し、適切に医療関係者に相談や報告できるようになる ③処方通りの薬を適切に内服することができる ④誤薬事故を減らす	①本人の病気や内服薬を把握し、薬情報を見て確認する。 ②日々の健康状態(バイタル、体重など)を正確に記録に残し、内服後の状況変化を観察し記録に残し、医療へ報告することで調整をしていく。 ③薬変更時は、変更理由、いつから、副作用等を申し送り(特記)として正しく記録する。 ④取り扱い、内服支援はマニュアルに沿って確実に行う。 ⑤細かなことでもリスクのあったことは、ヒヤリハットとして記録し、毎月のミーティングで話し合う。 ⑥上記5項目は基本項目であるが、定期的に発信や確認などを続け、担当かどうかではなく「気にする」「疑問に思う」を身につけていけるようにする。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。